

# Makita

## 取扱説明書

## エアコンプレッサ

50 - 60 Hz

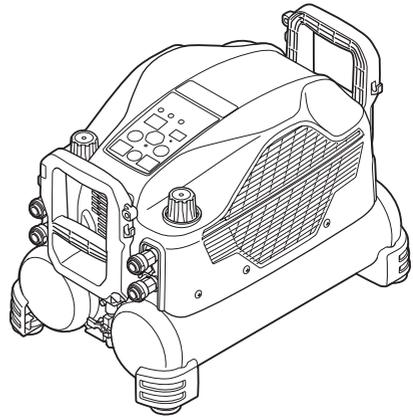
モデル AC500XL

モデル AC500XLH

モデル AC500XLN

モデル AC500XG

モデル AC500XGH



本製品はシングル絶縁構造ですので必ず接地（アース）してください。マキタ製品は電気用品安全法に基づく技術上の基準に適合、または準じて（電気用品安全法適用外の製品）製造されております。

このたびはエアコンプレッサをお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。

ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本製品の性能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただき、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願いいたします。なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。



# 目次

・ 主要機能	3
・ 安全上のご注意	6
・ 各部の名称	14
・ 本製品名称	14
・ 操作パネル	17
・ デジタル表示（タンク内圧力）	18
・ デジタル表示（電源電圧）	19
・ デジタル表示（取出圧力）	19
・ デジタル表示（本製品の状態）	20
・ 別販売品のご紹介	21
・ 使い方	22
・ 運転モード、タンク内最高圧力について	22
・ 運転前の点検・確認	24
・ 作業方法	26
・ 運転方法	26
・ ご使用後および運搬について	28
・ その他の機能	30
・ 高圧増設タンクのご使用について	30
・ エアコンプレッサの連結でのご使用について	32
・ 連結可能モデル／モード	33
・ ご使用後（連結ホースのはずし方）	35
・ こんなときは？	36
・ 運転中の異常について	36
・ 電圧感応制御について	36
・ 保護機能について	37
・ 保守・点検について	38
・ 給油について	38
・ 保管について	38
・ ご修理の際は	38
・ 点検ランプについて	38
・ エアコンプレッサ 保証書	44

# 主要機能

主要機能		モデル	AC500XL	AC500XLH	AC500XLN
電動機		DC ブラシレスモータ※ 3			
電圧		単相交流 100 V			
電流 ※ 1		15 A			
出力		1,200 W			
周波数		50 - 60 Hz			
減圧弁の 圧力調整 範囲	一般	0 ~ 0.88 MPa (0 ~ 9 kgf/cm <sup>2</sup> )	—	0 ~ 0.88 MPa (0 ~ 9 kgf/cm <sup>2</sup> )	
	高圧	0 ~ 2.45 MPa (0 ~ 25 kgf/cm <sup>2</sup> )		—	
タンク内最高圧力		4.5 MPa (46 kgf/cm <sup>2</sup> )			
回転速度 ※ 1		最大 2,500 min <sup>-1</sup>			
吐出し 空気量 ※ 2	2.5 MPa 時 (25.5 kgf/cm <sup>2</sup> )	83 L/min			
	0.69 MPa 時 (7 kgf/cm <sup>2</sup> )	98 L/min			
運転モード		速打ちモード 静音モード Air navi ON/OFF			
シリンダ径×行程 ×シリンダ数		1 段側	62 mm × 24 mm × 1		
		2 段側	41 mm × 11 mm × 1		
タンク容量		11 L			
本製品 寸法	長さ	517 mm			
	幅	322 mm			
	高さ	348 mm			
質量		15 kg			
空気 取出口	一般	一般圧用ワンタッチ ジョイント 2 個	—	一般圧用ワンタッチ ジョイント 4 個	
	高圧	高圧用ワンタッチ ジョイント 2 個	高圧用ワンタッチ ジョイント 4 個	—	

# 主要機能

主要機能		モデル	AC500XG	AC500XGH
電動機			DC ブラシレスモータ※ 3	
電圧			単相交流 100 V	
電流 ※ 1			15 A	
出力			1,200 W	
周波数			50 – 60 Hz	
減圧弁の 圧力調整 範囲	一般		0 ~ 0.88 MPa (0 ~ 9 kgf/cm <sup>2</sup> )	—
	高圧		0 ~ 2.45 MPa (0 ~ 25 kgf/cm <sup>2</sup> )	
タンク内最高圧力			4.5 MPa (46 kgf/cm <sup>2</sup> )	
回転速度 ※ 1			最大 2,500 min <sup>-1</sup>	
吐出し 空気量 ※ 2	2.5 MPa 時 (25.5 kgf/cm <sup>2</sup> )		83 L/min	
運転モード			速打ちモード 静音モード Air navi ON/OFF	
シリンダ径×行程 ×シリンダ数		1 段側	62 mm × 24 mm × 1	
		2 段側	41 mm × 11 mm × 1	
タンク容量			16 L	
本製品寸法	長さ		539 mm	
	幅		367 mm	
	高さ		373 mm	
質量			18 kg	
空気 取出口	一般		一般圧用ワンタッチ ジョイント 2 個	—
	高圧		高圧用ワンタッチジョ イント 2 個	高圧用ワンタッチジョ イント 4 個

- ・ 本製品は、釘打機などの空気工具用のエアコンプレッサですので、連続運転となるような使い方はやめてください。
- ・ 改良のため、主要機能および形状などは変更する場合がありますので、ご了承ください。
- ※ 1 速打ちモード時のもの。各モードの仕様については 22 ページの「運転モード、タンク内最高圧力について」をご覧ください。
- ※ 2 容積形圧縮機の試験規格 ISO1217 (JIS B 8341) による測定値

## 主要機能

- ※ 3 本製品は駆動源に DC ブラシレスモータを採用しています。  
インバータ制御により、回転数を変化させています。この回転数の変化により運転音が変化しますが、異常ではありません。

### 注

- 本製品内部には高電圧を発生する部分がありますので、分解・改造は絶対に行わないでください。

## 安全上のご注意

- ・ ご使用前に、「取扱説明書」と「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、正しく使用してください。
- ・ 感電、火災、重傷などの事故を未然に防ぐために、この「安全上のご注意」を必ず守ってください。

注意文の **⚠ 警告** ・ **⚠ 注意** ・ **注** の意味について

ご使用上の注意事項は **⚠ 警告** と **⚠ 注意** ・ **注** に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

- |             |  |
|-------------|--|
| <b>⚠ 警告</b> | : 誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。   |
| <b>⚠ 注意</b> | : 誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。<br>なお <b>⚠ 注意</b> に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。 |
| <b>注</b>    | : 製品および付属品の取り扱いなどに関する重要なお注意。   |

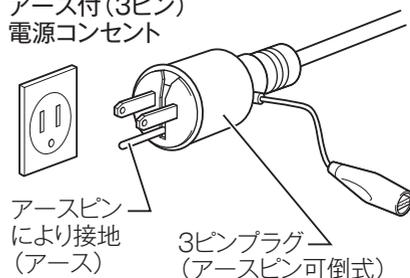
## ⚠ 警告

1. ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。
  - ・ 本製品の取り扱い知識が不十分な場合、事故の原因になります。
2. 本製品に接続するエアホース、エア釘打などの空気圧工具についても、ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。
  - ・ 本製品の取り扱い知識が不十分な場合、事故の原因になります。
3. 次のときは、本製品を使用しないでください。
  - 疲れているとき、身体が不調なとき。
  - 酒類や薬物を飲んで正常な操作ができないとき。
  - ・ 事故の原因になります。
4. 保護メガネ、耳栓を装着し、また作業環境に応じてヘルメットなども着用して釘打ち作業をしてください。
  - ・ 装着しないと打ち損じの釘や釘の連結片で目などにけがをしたり、排気音で耳を傷める原因になります。
5. きちんとした服装で作業してください。
  - ・ だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので着用しないでください。
  - ・ 長い髪は、帽子などで覆ってください。
6. 作業場の周囲状況も考慮してください。
  - ・ エアコンプレッサは、雨中で使用したり、湿った、または、濡れる可能性がある場所や、屋外で使用しないでください。漏電による事故の原因になります。
  - ・ 揮発性可燃物（ガソリン、シンナーなど）の近くでは使用しないでください。
  - ・ 腐食性ガス（塩分、酸、アンモニア、オゾンガス、亜硫酸ガスなど）の雰囲気では使用しないでください。火災や爆発の原因になります。
  - ・ 水に濡れたまま使用すると、感電したり短絡（ショート）して焼損・発火による火災の原因になります。
  - ・ 火気や燃えやすい物のそば、爆発性粉じんのある場所では使用しないでください。
  - ・ 吸気フィルタの目づまりによる性能低下、故障や発火、発熱、焼損の原因になります。
7. 十分な、防じん対策や飛散防止対策をしてください。
  - ・ 特に、人体に有害な成分を含む材料を加工するときは、注意してください。
8. アスベスト（石綿）周辺の環境下（除去作業含む）で使用しないでください。
  - ・ アスベストは、人体に肺がんなどの重大な健康被害を発症させる物質です。
9. 木くずなどのゴミやホコリの多い場所には設置しないでください。
  - ・ 過熱事故や部品の異常摩耗、モータが焼損する原因になります。
  - ・ 吸気フィルタの目づまりによる性能低下や過熱事故、異常摩耗の原因になります。
  - ・ 故障や発火、発熱、焼損の原因になります。
10. 子供を近づけないでください。
  - ・ 作業者以外、エアコンプレッサやコードに触れさせないでください。
  - ・ 作業者以外、作業場へ近づけないでください。
11. 風窓をふさいだり、通気性の悪い箱の中や狭い場所などで使用しないでください。
  - ・ 過熱事故や部品の異常摩耗、モータが焼損する原因になります。

## ⚠ 警告

- 12.使用中、本製品は硬く水平な場所に設置してください。また、縦置きで使用しないでください。
  - ・ 不安定な場所に設置すると、本製品が移動や落下、転倒して事故の原因になります。
  - ・ 落下、移動の恐れのある所では、ハンドルをロープで縛り付けるなどして確実に本製品を固定してください。
- 13.各部のボルトやネジのゆるみがないことを確認してください。
  - ・ 故障や事故の原因になります。
- 14.誤って落としたり、ぶつけたときは、本製品、タンクなどに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
  - ・ 破損や亀裂、変形があると、事故の原因になります。
  - ・ タンクの破損事故の原因になります。
- 15.エアコンプレッサの上に座ったり、重量物を載せたりしないでください。
  - ・ 破損や亀裂、変形の原因になります。
- 16.ワンタッチジョイントにエアセット、ペアジョイントなどの重量物を直接接続しないでください。
  - ・ 故障や事故の原因になります。
- 17.使用できる電源は AC100 V で 20 A 以上の容量のもので、エンジン発電機やエンジンウェルダなどの直流電源は使用しないでください。  
(当社インバータ制御付エンジン発電機は除く)
  - ・ 故障や発火、発熱、焼損の原因になります。
- 18.昇圧器などのトランス類は使用しないでください。
  - ・ 故障や発火、発熱、焼損の原因になります。
- 19.必ず接地（アース）してください。
  - ・ 故障や漏電の時、感電する原因になります。
  - ・ 本製品を使用するときはプラグに損傷がないか確認してください。損傷していたり、損傷の兆候がある場合は使用しないでください。接地（アース）が不完全な場合、漏電による事故の原因になります。
  - ・ 接地は電源コンセントに合わせるか電源プラグの横から出ているアースクリップをアース線に接続してください。
  - ・ アース付（3ピン）電源コンセントの場合 3ピンプラグを電源コンセントに挿し込んでください。（アースクリップによる接地は不要）

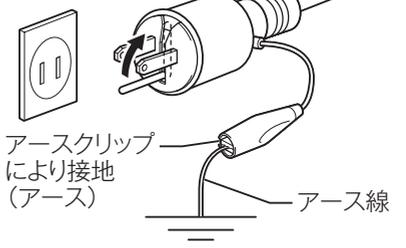
アース付(3ピン)  
電源コンセント



## ⚠ 警告

- 2極電源コンセントの場合  
アースクリップをアース線に接続してください。
- アースクリップやアースピン、アース線に異常がないか確認してください。
- テスターや絶縁抵抗計をお持ちでしたら、アースクリップ、アースピンと本製品の金属（外郭部）間の導通を確認してください。
- アース棒やアース板を地中に埋め込み、アース線を接続するような電気工事は電気工事士の資格が必要ですので最寄りの電気工事店に相談してください。
- 設置と共に、感電防止用漏電しゃ断器の設置された電源に接続されますことをおすすめます。
- 漏電しゃ断器や接地については、次の法規がありますので、ご参照ください。  
※労働安全衛生規則 第 333 条・第 334 条  
電気設備の技術基準 第 18 条・第 28 条・第 41 条

2極電源コンセント



### 20. アース線をガス管に接続しないでください。

- 火災、爆発の原因になります。

### 21. コードを乱暴に扱わないでください。

- コードを引っ張って、エアコンプレッサを移動させたり、電源コンセントから抜かないでください。
- コードを熱、油、角のある所に近づけないでください。

### 22. 延長コードを使用するときは、アース線を備えた 3 芯コードを使用してください。

- アース線のない 2 芯コードですと、故障や漏電時、感電の原因になります。

### 23. 電源が離れていて、延長コードが必要なときは、本製品を最高の効率で支障なくご使用いただくために長さ 30 m 以下、太さ（公称断面積） $2.0 \text{ mm}^2$ 以上のコードをできるだけ短くお使いください。

- 電圧降下による起動不良やモータ故障の原因になります。
- 他の機器と同時に使用されますとこの場合でも使用できない場合があります。

### 24. 延長コードやドラムコードなどを使用する場合は、すべて引き出し、のびした状態で使用してください。

- 故障や発火、発熱、焼損の原因になります。

### 25. 本製品のコードおよび使用の延長コードは定期的に点検してください。

- 電源プラグまたはコードが損傷している場合は交換してください。本製品のコードの交換は、お買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。

### 26. 不意な始動は避けてください。

- 電源プラグを電源コンセントに挿し込む時に、エアホースが接続されていないことを確認してください。

## ⚠ 警告

27. 本製品が水没や浸水した場合は必ず電源プラグをコンセントから抜き、使用しないでください。
  - ・ 水に濡れたまま使用すると、感電したり短絡（ショート）して焼損・発火による火災の原因になります。
28. タンクに刻印や溶接などの改造をしないでください。
  - ・ タンクの破損事故の原因になります。
29. 適切な電源・配線で使用してください。
  - ・ 他の機器と同じ電源に接続し、同時に使用されますと電源の電圧が低下し、使用できない場合があります。
  - ・ 性能低下や起動不良、故障の原因になり、製品寿命を短くします。
30. コンセントに挿し込んだ電源プラグがグラグラする、プラグの端子に変色や曲がりがある場合は使用しないでください。
  - ・ 故障や発火、発熱、焼損の原因になります。

## ⚠ 注意

1. 騒音に関しては、法令および各都道府県の条例で定める騒音規制があります。状況によってしゃ音壁を設けて作業してください。
2. 作業場はいつも明るく、きれいにしてください。
  - ・ 暗かったり、ちらかった所での作業は事故の原因になります。
3. エアコンプレッサは、注意深く手入れをしてください。
  - ・ 運搬時の落下防止のため、ハンドルは常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリスが付かないようにしてください。
4. 減圧弁の圧力調整は必ずモータの運転が停止してから設定してください。
  - ・ 減圧弁の特性上、タンク内の圧力変化によって、設定した取出圧力より最大0.2 MPa（2 kgf/cm<sup>2</sup>）程度変化することがあります。
  - ・ 減圧弁の圧力調整はノブを左に回して取出圧力を減圧してから右に回し、圧力を上げながら調整を行ってください。
  - ・ モータが運転中に設定を行うと、モータ停止後の取出圧力は設定圧力より下がります。
  - ・ モータの運転が停止した後設定した圧力は、空気圧工具を使用しタンク内圧力が下がると、取出圧力が上がる傾向にあります。

## ⚠ 警告

1. エアコンプレッサは運転を復帰する場合があります。
  - ・ エアコンプレッサを使用中、停電や電源ブレーカが落ちたり、電源プラグを電源コンセントから抜いたりした場合、一定時間エアコンプレッサの電源ボタンは ON で保持されます。  
この状態で停電や電源ブレーカの復帰、電源プラグを再度電源コンセントに挿し込んだ場合、エアコンプレッサの運転が復帰します。
2. 感電に注意してください。
  - ・ エアコンプレッサを使用中、身体をアースされているものに接触させないようにしてください。  
(例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠)
3. 空気の圧縮のみに使用してください。
  - ・ 空気以外のガス（プロパン、アセチレン、酸素、シンナーなどの可燃物質）を吸引したり、タンク内に蓄積されると、爆発する恐れがあります。
4. 一般取出口には、耐熱温度 60 °C 以上、耐圧 0.98 MPa 以上のエアホースを使用してください。高圧取出口には高圧専用エアホース以外は絶対使用しないでください。
  - ・ エアホースの破裂事故の原因になります。
5. エアホースを接続する前にエアホースとエアプラグが完全に固定されていることを確認してください。
  - ・ 固定が不完全だと、はずれて事故の原因になります。
6. 本製品は、釘打機などの空気工具用のエアコンプレッサですので、連続運転となるような使い方はやめてください。
  - ・ 製品寿命を早めたり、性能を低下させる原因になります。
7. 開口部やファン部に異物を入れたり、近づけたりしないでください。
  - ・ 巻き込みなどにより、故障や事故の原因になります。
8. エアコンプレッサは高温や直射日光が当たる場所に設置しないで、風通しのよい日陰などに設置してください。また、吸気・排気口をふさいだ状態で使用しないでください。
  - ・ 高温や直射日光が当たる場所で使用すると本製品の耐久性能が悪くなるばかりでなく、本体の温度が高くなって危険です。必ず風通しのよい日陰などで使用してください。
  - ・ タンク内の圧縮空気がさらに高圧になり、タンクが破裂する恐れがあります。
9. 濡れた手で本製品に触れないでください。
  - ・ 感電や事故の原因になります。
10. 標準付属品や指定の別販売品を使用してください。
  - ・ 本取扱説明書および当社カタログに記載されている標準付属品や別販売品以外のものを使用すると、故障や事故の原因となる恐れがあるので使用しないでください。
11. エアコンプレッサは、空気充てんのまま長時間、直射日光に当てたり、高温な場所に放置しないでください。
  - ・ タンク内の圧縮空気がさらに高圧になり、タンクが破裂する恐れがあります。

## ⚠ 注意

1. 本製品の調子が悪かったり、異常音がした場合は、直ちに電源ボタンを OFF にしてエアコンプレッサを停止し、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。さらにドレンコックを全開にして圧縮空気をすべて抜いて使用を中止し、お買い上げの販売店、または当社営業所に点検、修理をお申し付けください。
  - ・ そのまま使用していると、事故の原因になります。
  - ・ アスベスト（石綿）周辺の環境下（除去作業含む）で使用した電動工具の保守・点検・修理は受付できません。
2. 使用時および使用直後のタンクなどの金属部は、高温になることがあります。これは空気の圧縮熱のためで故障ではありませんが、やけどに注意してください。
3. 本製品を寒冷地で使用する場合
  - 本製品をあらかじめ暖めてから運転してください。
  - 電源プラグをコンセントに接続しドレンコックを開放したまましばらく運転させて、暖機運転をした後に使用してください。
  - ・ 凍結による作動不良や破損の原因になります。
  - タンク内のドレンが凍結している状態で、ドレンコックを操作しないでください。
  - ・ 無理に操作すると氷がドレンコックの内部を傷付けることがあります。
  - ・ 外気温度が 5℃～ 40℃の範囲外で使用すると、動作不良、寿命低下、破損の原因になります。
4. ラジオなどへの影響について
  - ・ ラジオなどに対して電波ノイズの影響を与える場合があります。その場合は 3 m 以上離してご使用ください。
  - ・ 電波ノイズの影響は、周囲環境（天候、交通量、使用機器など）によって変化することがあります。

### ご使用後

## ⚠ 警告

1. エアコンプレッサを停止後は、電源ボタンを OFF にして電源プラグを電源コンセントから抜いてください。
  - ・ 電源ボタンが ON のまま電源プラグを電源コンセントから抜いた場合、一定時間は電源ボタンが ON の状態で維持されるので、再度電源プラグを電源コンセントに差し込むと、運転が再開する場合があります。
2. ドレンコックを開いて、タンク内のドレンと圧縮空気をすべて抜いてください。
  - ・ タンク内に圧縮空気が残ったままだとタンクが破裂する恐れがあります。
  - ・ ドレンと圧縮空気には、空気中の水分や摩耗粉、錆などが混ざっています。タンク内に残ったままにしておくこと故障の原因になります。

## ⚠ 警告

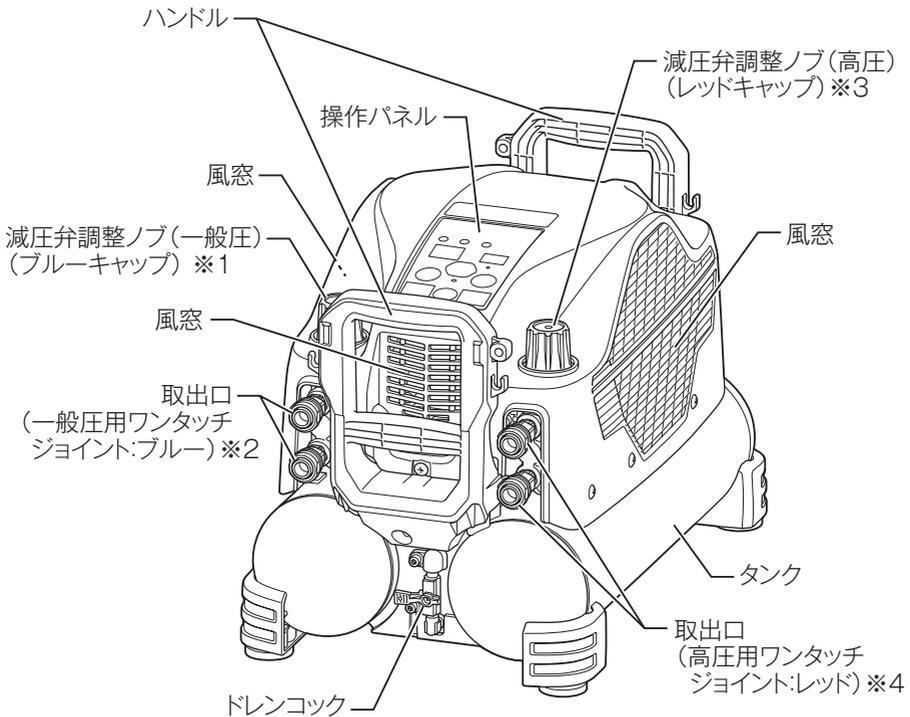
3. ドレンと圧縮空気を抜く場合は、周囲に飛散するものがないことを確認してください。ドレンコックは徐々に開いて排出具合を調整してください。
  - ・ ドレンコックを一気に全開にすると、排出の勢いで、ドレンや圧縮空気が地面にはねかえったりして、失明などけがの原因になります。
  - ・ ドレンコックを一気に全開にすると、ドレンや圧縮空気の排出音によって耳を傷める恐れがあります。
4. ドレンと圧縮空気を抜く場合は、顔をドレンコックに近づけないでください。
  - ・ ドレンや圧縮空気によって失明や耳を傷める恐れがあります。
5. タンク内のドレンと圧縮空気がすべて抜けてからエアホースをはずしてください。
  - ・ タンク内に圧縮空気が残ったままエアホースをはずすとカプラがはね、けがや事故の原因になります。
6. 本製品を分解、改造しないでください。
  - ・ 故障や事故の原因になります。
7. 損傷した部品がないか点検してください。
  - ・ 損傷した部品交換は、お買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。
  - ・ 修理の知識や技術のない方が修理しますと、十分な性能を発揮しないだけでなく、故障や事故の原因になります。

## ⚠ 注意

1. いつも安全に効率よくご使用いただくために、定期点検をおすすめします。
  - ・ 定期点検は、必ずお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。
2. 使用しない場合は、きちんと保管してください。
  - ・ 乾燥した場所で、子供の手の届かない所または鍵のかかる所に保管してください。
  - ・ 長期間ご使用にならない場合は、保管前にドレンコックを全開にし、5分以上の運転を行ってください。
3. 本製品を寒冷地で使用・保管する場合  
タンク内のドレンが凍結したり、ドレンコックが凍結してドレンが排出できない場合があるため、暖かい場所に本製品を移動し、タンク内のドレンと圧縮空気をすべて抜いて保管してください。

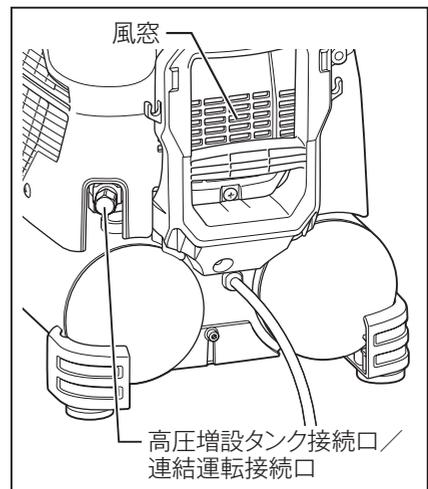
# 各部の名称

## 本製品名称



## 背面図

- ※ 1. AC500XLH/AC500XGH は減圧弁調整ノブ(高圧)(レッドキャップ)
- ※ 2. AC500XLH/AC500XGH は高圧用ワンタッチジョイント (レッド)
- ※ 3. AC500XLN は減圧弁調整ノブ(一般圧) (ブルーキャップ)
- ※ 4. AC500XLN は一般圧用ワンタッチジョイント (ブルー)



- ・ 操作パネルについては、17 ページの「操作パネル」をご覧ください。
- ・ ドレンコックについては、15 ページの注意事項をお読みください。
- ・ 減圧弁調整ノブについては、16 ページの注意事項をお読みください。
- ・ 取出口については、16 ページの注意事項をお読みください。

# 各部の名称

## 本体の冷却

圧縮空気を生成する際の発熱を冷却するために本体の内部には冷却ファンがあり、前後左右の風窓は、内部を冷却するための空気の出入り口です。

### 注

- ・ 温度の高い場所や冷却を妨げる場所で使用しないでください。

## 吸気フィルタ

本製品の内部には、圧縮機内部への粉じんの侵入を防ぐため、吸気フィルタを設けてあります。

### 注

- ・ 吸気フィルタの目づまり防止のため、木くずなどのゴミやホコリの多い場所、有機溶剤（シンナー）などの雰囲気で使用しないでください。

## ドレンコック

### ⚠ 警告

ドレンと圧縮空気を抜く場合は、周囲に飛散するものがないことを確認してください。ドレンコックは徐々に開いて排出具合を調整してください。顔をドレンコックに近づけないでください。

- ・ ドレンコックを一気に全開にすると、排出の勢いで、ドレンや圧縮空気が地面にはねかえったりして、失明などけがの原因になります。
- ・ ドレンコックを一気に全開にすると、ドレンや圧縮空気の排出音によって耳を傷める恐れがあります。

## 各部の名称

減圧弁調整ノブ（レッドキャップ：高圧）（ブルーキャップ：一般圧）

### 注

- ・ 圧力を調整する際は、本製品のタンクが満充でんでモータが停止した状態を確認後、必ず適正圧力より低い圧力から圧力を上げて調整してください。
- ・ 適正な圧力より高い圧力から減圧を行い調整すると、圧力計と実際の使用圧力に誤差が生じます。
- ・ 減圧弁で設定できる最高取出圧力は、一般圧用で約 0.88 MPa、高圧用で約 2.45 MPa です。
- ・ エアホースやエア釘打などの空気圧工具は、必ず使用空気圧力の範囲内で使用してください。  
圧力が高すぎるとエア工具の寿命を早めたり、故障や事故の原因になります。
- ・ 一般的にエア工具は使用空気圧を低くして使用した方が長持ちします。

取出口（レッド：高圧用ワンタッチジョイント）  
（ブルー：一般圧用ワンタッチジョイント）

### ⚠ 警告

ワンタッチジョイントにエアセット、ペアジョイントなどの重量物を直接接続しないでください。

- ・ 故障や事故の原因になります。

### 注

- ・ 一般圧取出口に、高圧専用エアホースを接続しないでください。  
ワンタッチジョイント内部の弁が傾き、エア漏れの原因になります。

# 各部の名称

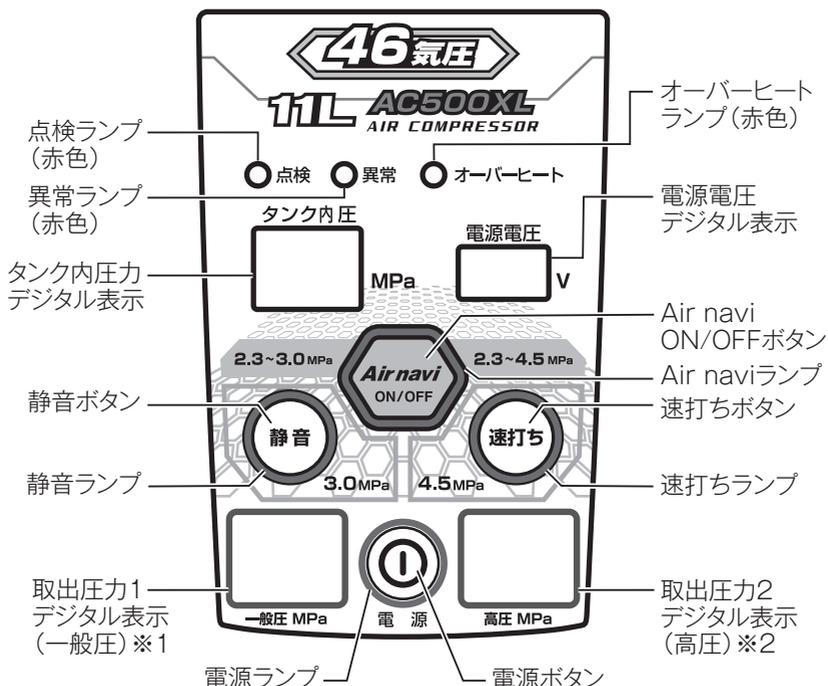
## 操作パネル

電源スイッチや運転モードの切り替え操作を行ったり、電源電圧や各部の圧力などが確認できます。

### 注

- 操作パネルには精密電子部品を使用しておりますので、この部分に物を載せたりなど力を加えたり、衝撃を与えないようにしてください。

パネルのイラストは、AC500XL です。



※ 1. AC500XLH/AC500XGH は取出圧力 1 デジタル表示 (高圧)

※ 2. AC500XLN は取出圧力 2 デジタル表示 (一般圧)

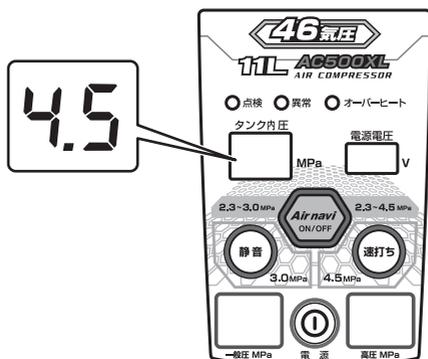
- 運転モードの切り替えについては、22 ページの「運転モード、タンク内最高圧力について」をご覧ください。
- 点検ランプについては、38 ページの「点検ランプについて」をご覧ください。
- 異常ランプ/オーバーヒートランプについては、37 ページの「保護機能について」をご覧ください。

# 各部の名称

## デジタル表示（タンク内圧力）

タンク内圧力をデジタル表示します。

- ・ モータが運転中の場合は、タンク内圧力をデジタル表示します。
- ・ 速打ちモード／Air navi を OFF（タンク圧内最高圧力：4.5 MPa）に設定した場合  
タンク内圧が最高圧力まで達し、モータが停止中の場合には、4.49 ～ 4.40 MPa まで 4.5 と点滅表示します。  
タンク内圧力が 4.39 MPa 以下の場合は、モータが停止中でもタンク内圧力をデジタル表示します。
- ・ 静音モード／Air navi を OFF（タンク圧内最高圧力：3.0 MPa）に設定した場合  
タンク内圧が最高圧力まで達し、モータが停止中の場合には、2.99 ～ 2.90 MPa まで 3.0 と点滅表示します。  
タンク内圧力が 2.89 MPa 以下の場合は、モータが停止中でもタンク内圧力をデジタル表示します。
- ・ 速打ち／静音モードにおいて、Air navi を ON の場合、停止圧力がエア消費量に応じて適宜変化しますので、「停止した圧力 - 0.01 MPa」から、「停止した圧力 - 0.10 MPa」の間、停止した圧力値で点滅表示します。「停止した圧力 - 0.11 MPa 以下」の場合は、モータが停止中でもタンク内圧力をデジタル表示します。

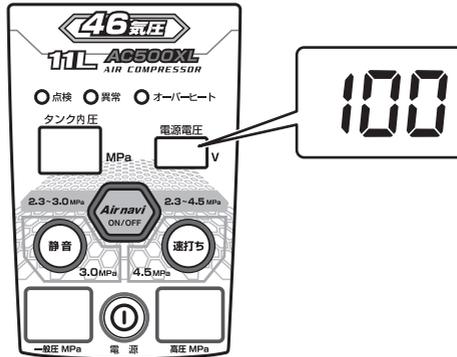


# 各部の名称

## デジタル表示（電源電圧）

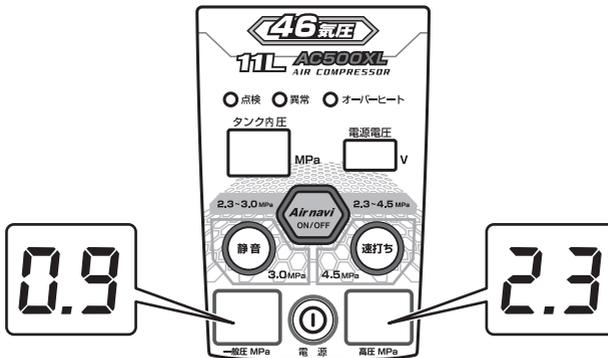
電源電圧をデジタル表示します。

- ・ モーターが運転中の場合は、電源電圧が下がる場合があります。
- ・ 操作パネル上の表示電圧はコンプレッサ内部での電圧です。コンセント電圧とは異なります。表示電圧は目安としてください。



## デジタル表示（取出圧力）

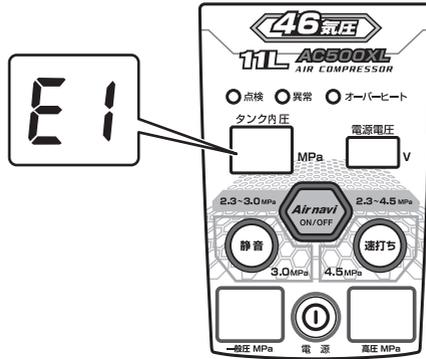
取出圧力をデジタル表示します。



# 各部の名称

## デジタル表示（本製品の状態）

保護機能が作動した場合には、「タンク内圧」欄にデジタル表示でその状態を表します。表示内容は以下の通りです。



デジタル表示	読み方	状態
	E1（イーワン）	保護機能が作動した時に表示。 保護機能については、37 ページの「保護機能について」をご覧ください。
		
	Ed（イーディー）	

## 別販売品のご紹介

- ・ 別販売品の詳細につきましてはカタログを参照していただくか、お買い上げの販売店、または当社営業所へお問い合わせください。
- ・ 一般圧用エアホース  
部品番号：A-46159 等
- ・ 高圧用エアホース  
部品番号：A-57233 等
- ・ 高圧増設タンク  
部品番号：A-49878
- ・ 高圧増設タンク接続専用ホース  
部品番号：A-49890
- ・ 連結専用エアホース  
部品番号：A-51194
- ・ メスカプラ 3/8 左ネジ  
部品番号：A-51518
- ・ ショルダベルト  
部品番号：166058-0
- ・ ショルダベルト用フック  
部品番号：A-51649

# 使い方

## 運転モード、タンク内最高圧力について

本製品は作業に応じて選択可能な運転モード切替機能を搭載しています。

### Air navi について

Air navi は、圧縮エアの使用状況をコンプレッサが判断してタンク内最高圧力（停止圧力）と再起動圧を自動的に変化させる機能です。

圧縮空気の使用状況をコントローラがチェックし、圧力が足りないと判断した場合は自動的に停止圧力を上げ、逆に圧力に余裕があると判断した場合は、自動的に停止圧力を下げます。

用途に応じて Air navi を使用すれば、タンク内最大圧力の最適調整により、効率よく運転でき、コンプレッサの高寿命につながります。

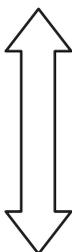
運転モード		タンク内圧制御範囲		回転速度	電流
速打ち ／静音	Air navi ON/OFF	タンク内最高圧力 停止圧力	再起動圧力		
速打ち	OFF	約 4.5 MPa	約 4.1 MPa	最大 2,500 min <sup>-1</sup>	最大 15 A
	ON	約 4.5 - 2.7 MPa	約 4.1 - 2.3 MPa		
用途: 2 × 4、在来工法の建前、ネダレス工法による床張り、在来建築、下地作業など					
静音	OFF	約 3.0 MPa	約 2.5 MPa	最大 1,800 min <sup>-1</sup>	最大 12 A
	ON	約 3.0 - 2.7 MPa	約 2.5 - 2.3 MPa		
用途: 住宅密集地での内装作業、内装造作、リフォームなど					

エア使用量

運転モード

タンク内圧制御範囲

大



小

Air navi

上限 ↔ 下限 (MPa)



# 使い方

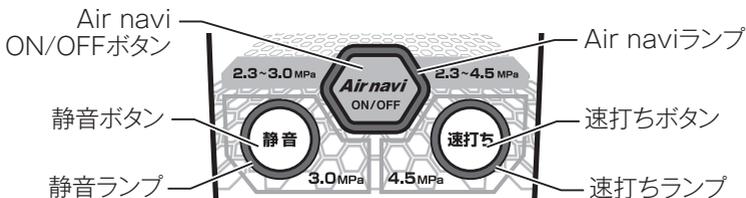
## 操作パネルの操作方法

### 速打ち／静音モードの切り替え

- ・ 速打ちボタンまたは静音ボタンを押します。  
選択中のモードのランプが点灯します。
- ・ エア消費量の大小から速打ち／静音を選択してください。

### Air navi の ON/OFF 切り替え

- ・ Air navi ON/OFF ボタンを押します。  
ON の時、ランプが点灯します。
- ・ 運転頻度により ON/OFF を選択してください。
- ・ 速打ち／静音モードの切り替えを行っても、Air navi ON/OFF は変更されません。



## 注

- ・ 運転モードは前回設定した状態が記憶されます。
- ・ Air navi は、作業の初めに電源プラグを接続し、電源を ON でエアを充てんさせた場合の最初の停止圧は速打ちモードで 3.3MPa、静音モードで 2.8MPa になります。
- ・ 連続運転となる場合は運転モードをエア消費量大の設定側へ変更してください。
- ・ Air navi は、エア消費量の頻度が安定していない作業や、急に吐出し空気量を超える作業を行った場合には、一時的にエア不足が発生する場合があります。

## ⚠ 警告

運転モードは連続運転となる設定で使用しないでください。  
連続運転となる用途には使用しないでください

- ・ 製品寿命を早めたり、性能を低下させる原因になります。
- ・ 部品の早期摩耗や故障の原因になります。

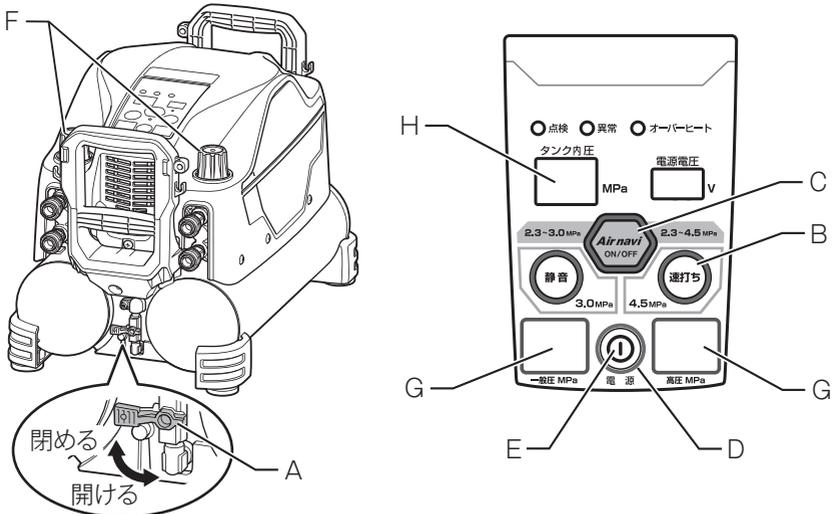
# 使い方

## 運転前の点検・確認

### ⚠ 警告

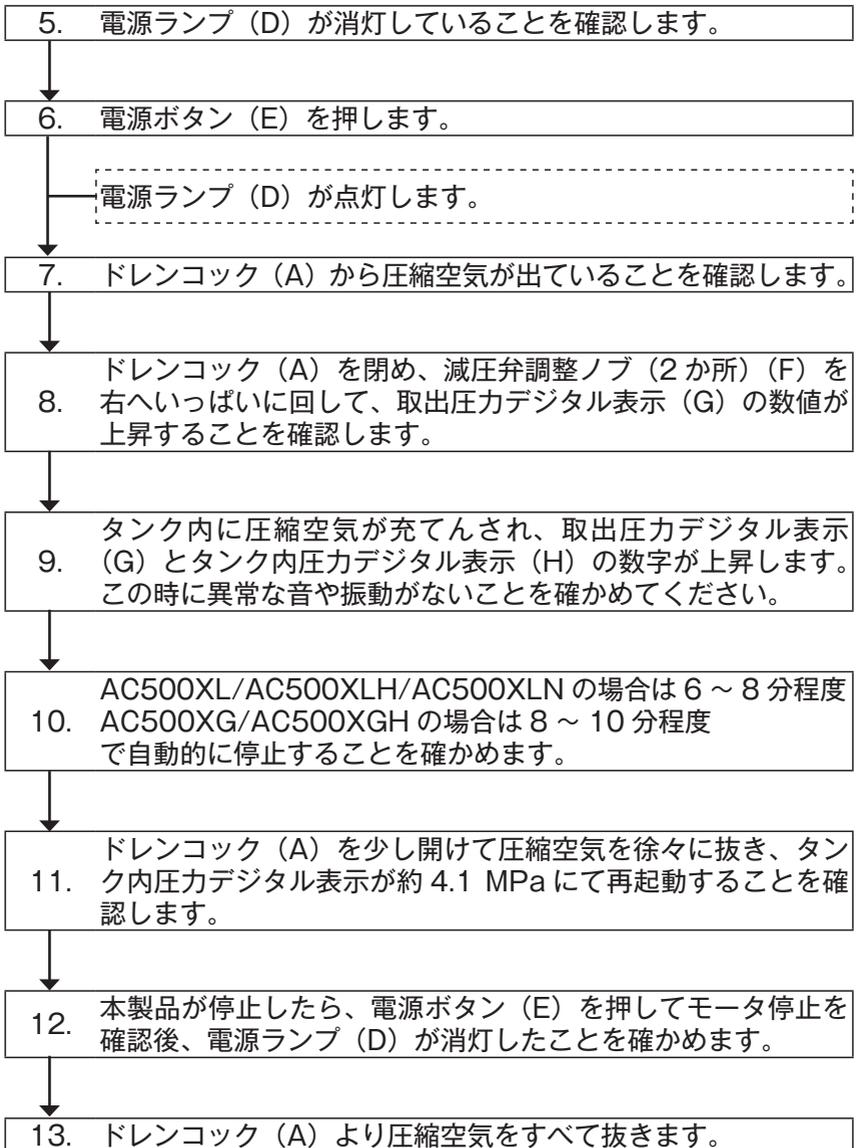
使用できる電源は単相交流 100V で 20A の容量のものです。エンジン発電機やエンジンウェルダなどの直流電源は使用しないでください（当社インバータ制御付エンジン発電機は除く）。

- ・ 故障や発火、発熱、焼損、性能低下の原因になります。



1. 電源プラグを電源コンセントに挿し込みます。  
2極電源コンセントの場合はアースクリップを接地してから、アース付（3ピン）コンセントの場合は直接挿し込みます。（8 ページ参照）。
2. ドレンコック（A）を全開にします。
3. 速打ちボタン（B）を押して、運転モードを「速打ちモード」に切り替えます。
4. Air navi ON/OFF ボタン（C）を押して、Air navi を OFF にします。

# 使い方



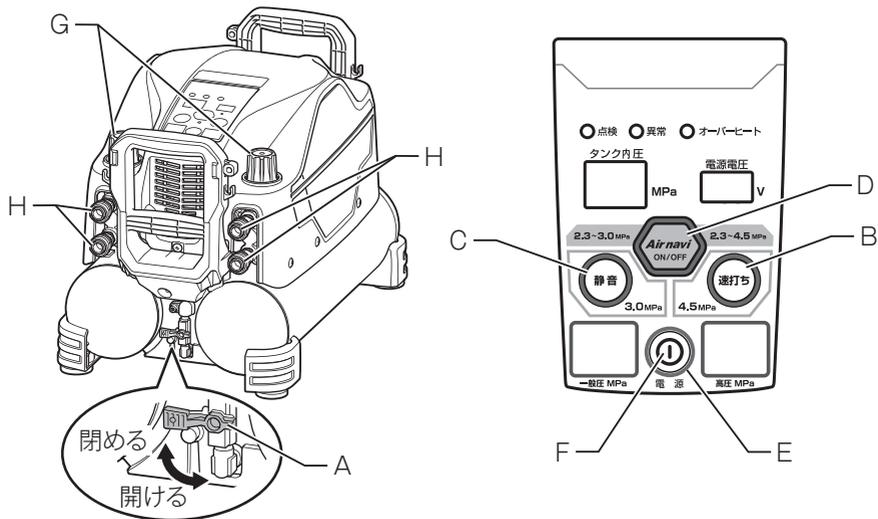
以上で点検・確認は終わりです。異常がなければ、「作業方法」に従って、ご使用ください。

運転前の点検・確認で異常がありましたら、お買い上げの販売店、または当社営業所に修理をお申し付けください。

# 作業方法

## 運転方法

ご使用前に必ず 24 ページの「運転前の点検・確認」を行ってください。



1. 電源プラグを電源コンセントに挿し込みます。  
2極電源コンセントの場合はアースクリップを接地してから、アース付（3ピン）コンセントの場合は直接挿し込みます。（8 ページ参照）。

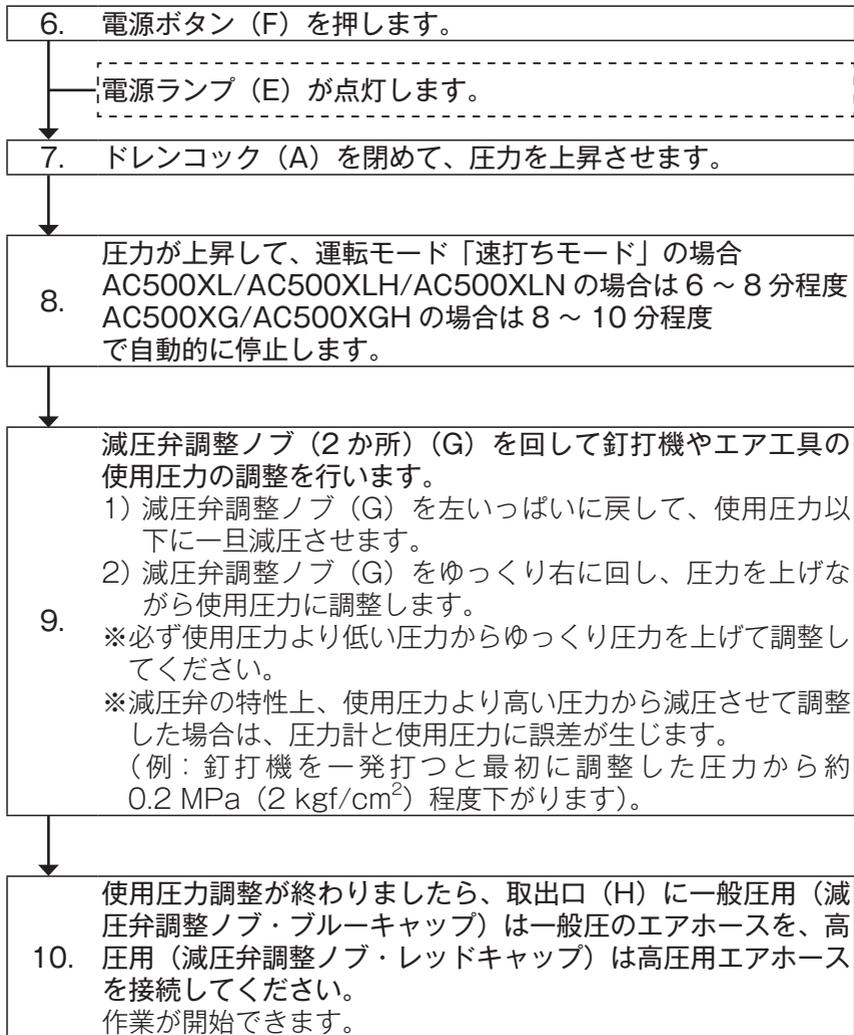
2. ドレンコック（A）を全開にします。

3. 速打ちボタン（B）または静音ボタン（C）を押して、ご使用になる運転モードに切り替えます。

4. Air navi ON/OFF ボタン（D）を押して、Air navi を ON、OFF のいずれかに設定します。

5. 電源ランプ（E）が消灯していることを確認します。

# 作業方法



## ⚠ 警告

高圧増設タンク接続口には、マキタ指定の高圧増設タンク接続専用ホース以外は絶対にご使用にならないでください。

- ・ エアホース、接続した機器の破裂事故の原因になります。

エアホースを接続する前にエアホースとエアプラグが完全に固定されていることを確認してください。

- ・ 固定が不完全だと、はずれて事故の原因になります。

# 作業方法

## ご使用後および運搬について

### ⚠ 警告

ご使用後および運搬時または停電時は、必ずスイッチを OFF にして、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

- ・ 電源ボタンが ON のまま電源プラグを電源コンセントから抜いた場合、一定時間は電源ボタンが ON の状態で維持されるので、再度電源プラグを電源コンセントに差し込むと、運転が再開する場合があります。

ドレンコックを開いて、タンク内のドレンと圧縮空気をすべて抜いてください。

- ・ タンク内に圧縮空気が残ったままだとタンクが破裂する恐れがあります。
- ・ ドレンと圧縮空気には、空気中の水分や摩耗粉、錆などが混ざっています。タンク内に残ったままにしておくで故障の原因になります。

ドレンと圧縮空気を抜く場合は、周囲に飛散するものがないことを確認してください。ドレンコックは徐々に開いて排出具合を調整してください。顔をドレンコックに近づけないでください。

- ・ ドレンコックを一気に全開にすると、排出の勢いで、ドレンや圧縮空気が地面にはねかえったりして、失明などけがの原因になります。
- ・ ドレンコックを一気に全開にすると、ドレンや圧縮空気の排出音によって耳を傷める恐れがあります。

ハンドルに亀裂、破損、変形がないか、取り付け部のネジがゆるんでいないかを確認してください。

- ・ そのまま使用すると落下による事故やけがの原因になります。

ショルダベルト、ショルダベルト用フック、本製品の取り付け部に亀裂、破損、変形がある場合にはショルダベルトは使用しないでください。

- ・ そのまま使用すると落下による事故やけがの原因になります。

ショルダベルト、ショルダベルト用フック、本製品の取り付け部に過度な負荷がかかるとショルダベルト、ショルダベルト用フック、本製品の取り付け部が破損し、作業者及び周囲または下にいる人がけがをする恐れがあります。

ショルダベルト、本製品のショルダベルト取り付け部は肩掛け運搬専用です。肩掛け運搬以外（高所での落下防止、クレーンなどでの吊り、引きずり、壁掛けなど）には使用しないでください。

本製品にショルダベルトを取り付け使用する際は、指定の別販売品のショルダベルト用フックとショルダベルト以外は使用しないでください。また、ショルダベルトとショルダベルト用フックがしっかりと本製品取り付け部に取り付けられていることを確認して使用してください。

- ・ 本製品が脱落するなど、事故の原因となります。

ショルダベルトを使用して運搬する際は、ハンドルをしっかり握りながら運搬してください。

- ・ ぶつかけたり、引っ掛けたりして事故の原因になります。

## 作業方法

### ⚠ 警告

ショルダベルトを使用して運搬する際は、ショルダベルトや本製品が身体や障害物に絡まないように注意してください。

- ・ ぶつけたり、引っ掛けたりして事故の原因になります。

ショルダベルトは本製品を使用する際、作業の妨げにならない状態にしてください。

- ・ ショルダベルトに足がかかった際に、バランスを崩して事故の原因になります。

ショルダベルトを肩からはずして置く場合は、衝撃を与えないでください。

ショルダベルトで運搬する際は、乱暴に扱ったり、振り回したりしないでください。

ショルダベルトを肩に掛けた状態で、運転しないでください。

運転中はショルダベルトを本体からはずしてください。

運搬時以外は、ショルダベルトを本製品からはずしてください。

- ・ 足を引っ掛けて、けがをする恐れがあります。

### ⚠ 注意

ドレンと圧縮空気を抜いている途中に、ドレンコックの内部が凍結し、排出が一時的に止まることがあります。

その際は、ドレンコックを無理に操作しないで、自然に解けるのを待ってください。

- ・ 無理にドレンコックを操作すると、ドレンコックが故障する恐れがあります。

## その他の機能

### 高圧増設タンクのご使用について

本製品はマキタ専用の高圧増設タンクを接続することにより、タンク容量が増えて、より効率的な作業が可能になります。

### ⚠ 警告

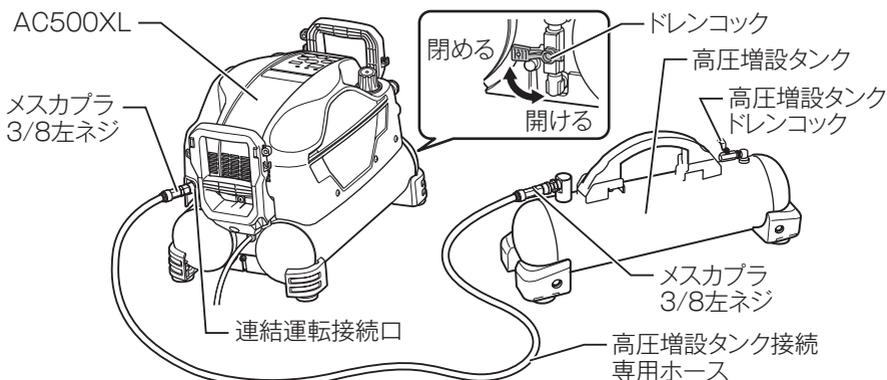
高圧増設タンクをご使用の際は、必ず高圧増設タンクの取扱説明書をお読みください。

本製品はマキタ専用の高圧増設タンクのみに接続できます。指定以外の使い方はやめてください。

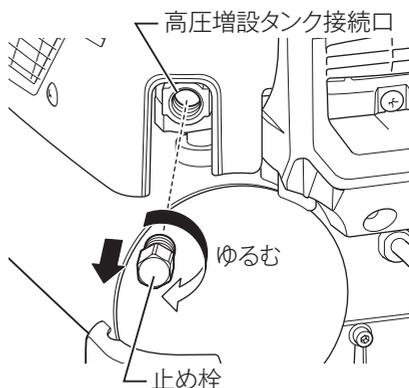
本製品および高圧増設タンクのドレンコックをゆるめ、タンク内の圧縮空気をすべて抜いてから、接続をしてください。

- ・ 事故の原因になります。

### エアコンプレッサと高圧増設タンクの連結

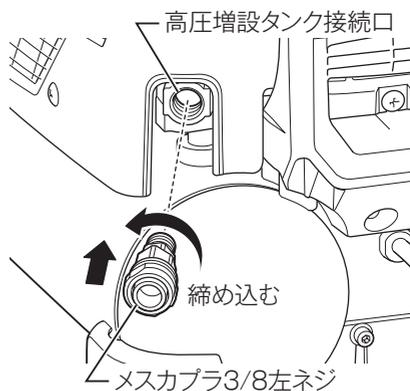


1. 本製品の電源プラグを電源コンセントから抜きます。
2. 本製品のドレンコックを全開にして、タンク内に圧縮空気がないことを確認します。
3. ドレンコックを閉めます。
4. 本製品の高圧増設タンク接続口についている止め栓をレンチではずします。
  - ・ 止め栓は、右に回してゆるめ、左に回して締め込みます。

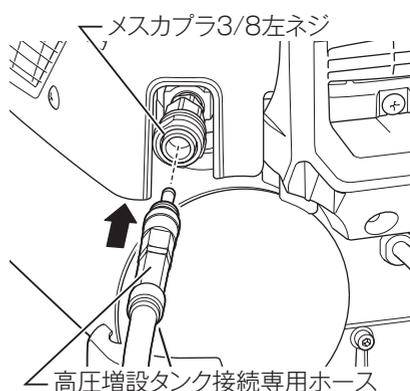


## その他の機能

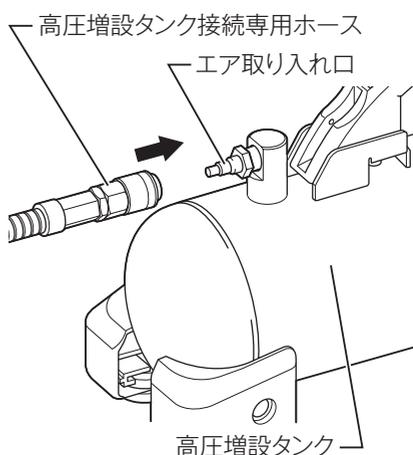
5. メスカプラ 3/8 左ネジを本製品の  
高圧増設タンク接続口に取り付けま  
す。  
メスカプラ 3/8 左ネジを左に回して  
しっかりと締め込みます。



6. 高圧増設タンク接続専用ホースのエ  
アプラグ側を、本製品に取り付け  
たメスカプラ 3/8 左ネジに接続しま  
す。
  - ・ カチッと手応えがあるまで挿し込み  
ます。
7. 高圧増設タンクのドレンコックを全  
開にして、タンク内に圧縮空気が  
ないことを確認します。
  - ・ ドレンコックは開いたままにして  
おきます。



8. 高圧増設タンク接続専用ホースのワ  
ンタッチジョイント側を、高圧増設  
タンクのエア取り入れ口に接続しま  
す。
9. 本製品のスイッチを ON にして、高  
圧増設タンクのドレンコックから圧  
縮空気が出ていることを確認しま  
す。
  - ・ 圧縮空気が出ない場合は本製品のス  
イッチを OFF にし、本製品と高  
圧増設タンクのドレンコックを全開に  
してから、接続を確かめてください。
10. 高圧増設タンクのドレンコックを閉  
めて、圧縮空気を充てんします。



## その他の機能

### エアコンプレッサの連結でのご使用について

本製品は2台を連結することにより、それぞれ別々にご使用になるよりも効率的な運転ができるようになり、より多くのエアを消費する作業に対応することが可能になります。

#### 警告

本製品はマキタのエアコンプレッサ AC500、AC460、AC461、AC462 シリーズにのみ接続可能です。それ以外のエアコンプレッサとの接続はしないでください。

- ・ 誤作動や事故の原因になります。

エアを一時的に大量に使用する用途（躯体作業など）以外には使用しないでください。

- ・ 圧力センサ作動タイミング誤差により運転時間が片寄り、長時間の使用は故障の原因となります。

連結使用する場合、連結する2台ともに本製品のドレンコックをゆるめ、タンク内の圧縮空気をすべて抜いてから、連結専用ジョイントおよび連結専用エアホースの接続をしてください。

- ・ 事故の原因になります。

連結するエアコンプレッサの電源は、別々に AC100 V で 20 A 以上の容量の電源に接続してください。

- ・ 誤作動や事故の原因となります。

マキタ純正連結専用ジョイント、連結専用エアホース以外は接続しないでください。

シリーズによって運転モード、最高圧力の条件が異なります。連結運転の際には、必ず次ページの「運転モード対応表」に合わせた運転モードにしてください。

- ・ 誤作動や事故の原因となります。

## その他の機能

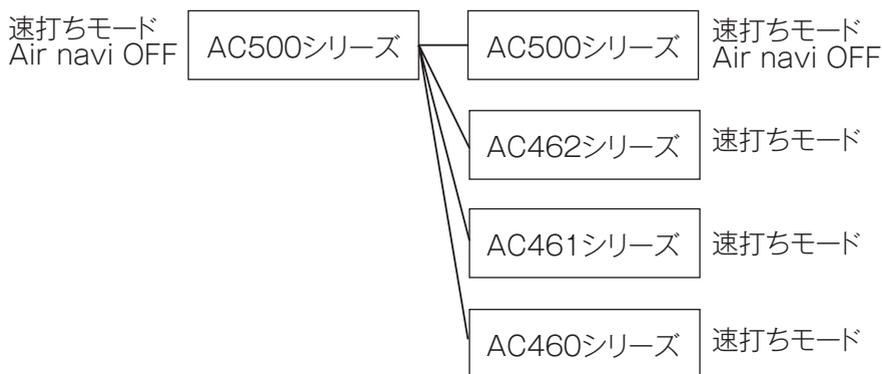
### 連結可能モデル／モード

#### 連結可能

本製品を他のコンプレッサに連結する場合は、運転モードを必ず速打ちモード（最高圧力：4.5 MPa）、かつ Air navi を OFF に設定してください。

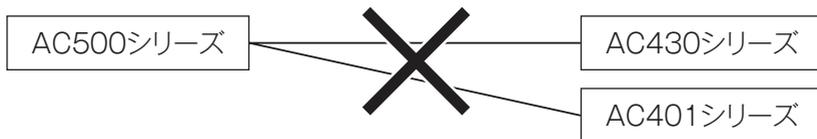
連結相手の運転モードは、速打ちモード（最高圧力：4.5 MPa）に設定してください。

連結相手が同じく AC500 シリーズの場合は、連結相手も運転モードを速打ちモード、かつ Air navi を OFF に設定してください。



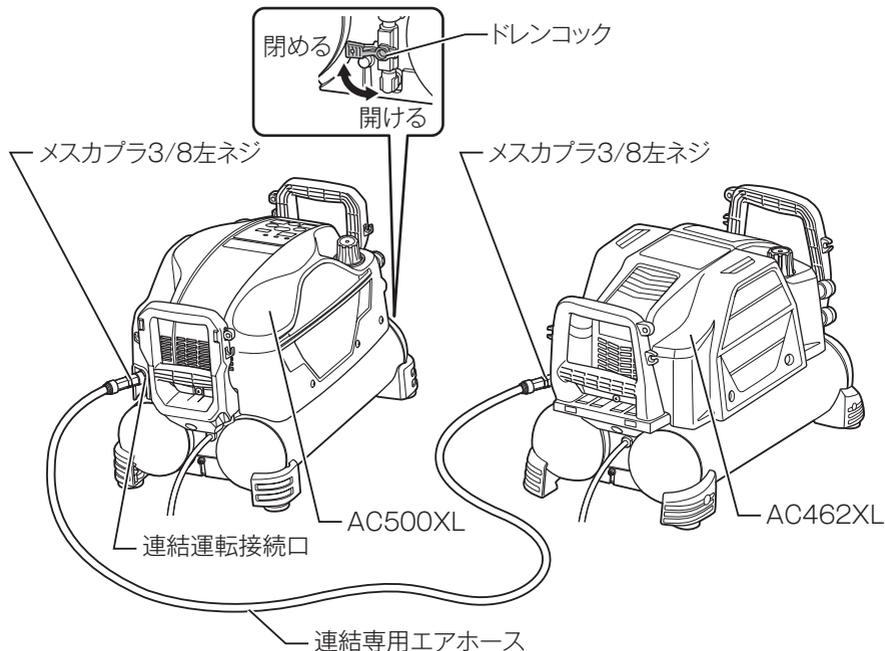
#### 連結不可

タンク内最高圧力が異なるため、連結できません。

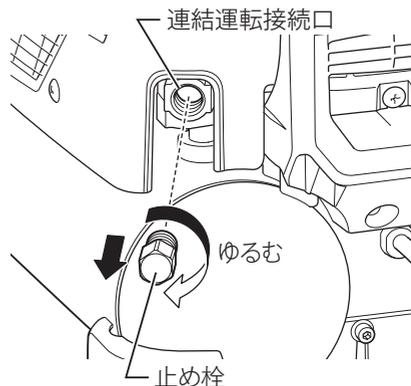


## その他の機能

### エアコンプレッサの連結

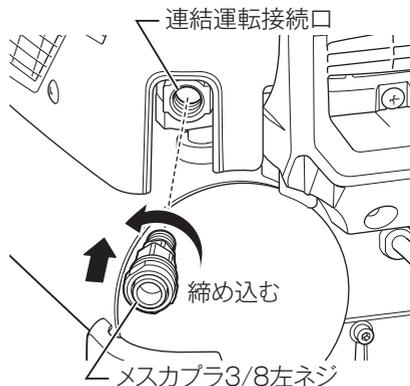


1. 本製品の電源プラグを電源コンセントから抜きます。
2. 本製品のドレンコックを全開にして、タンク内に圧縮空気がないことを確認します。
3. ドレンコックを閉めます。
4. 本製品の連結運転接続口についている止め栓をレンチではずします。
  - ・ 止め栓は、右に回してゆるめ、左に回して締め込みます。

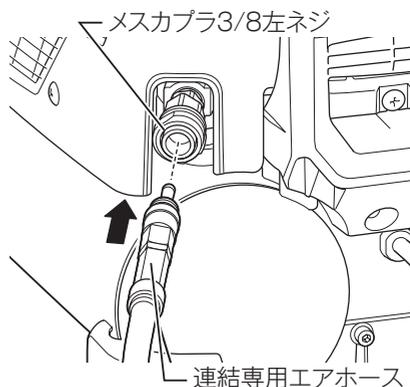


## その他の機能

- メスカプラ 3/8 左ネジを本製品の連結運転接続口に取り付けます。
  - メスカプラ 3/8 左ネジを左に回してしっかりと締め込みます。



- 連結専用エアホースのエアプラグを、本製品に取り付けたメスカプラ 3/8 左ネジに接続します。
  - カチッと手応えがあるまで挿し込みます。



- もう片方のエアコンプレッサも同じ手順で接続します。
- 接続が完了したら、2台のエアコンプレッサの電源プラグを電源コンセントに挿し込みます。
- 速打ちボタンを押して、またはモード切替ボタンを押して、2台のエアコンプレッサの運転モードを速打ちモード (Air navi OFF) にします。
- エアコンプレッサを起動させ、本製品タンク内に圧縮空気を充てんします。

### ご使用後（連結ホースのはずし方）

- 本製品の電源プラグを電源コンセントから抜きます。
- 連結した両方のドレンコックを全開にして、タンク内に圧縮空気がないことを確認します。
- 連結専用ホースをはずします。

## こんなときは？

### 運転中の異常について

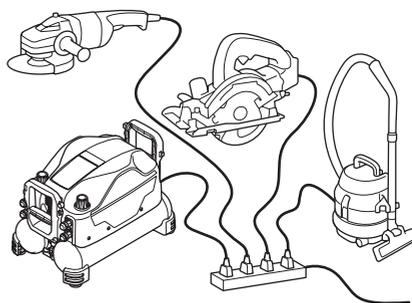
#### ⚠ 警告

次のような異常を発見した場合は、直ちに使用を中止し、お買い上げの販売店、または当社営業所に修理をお申し付けください。

- ・ 電源ボタンを押してもモータがうなって運転できない。
- ・ 運転中に異常な音、振動がする。
- ・ 適切な電源なのにモータの運転が頻繁に停止する。
- ・ エアを消費していないのにごく短時間（約 10 分）で再起動したり、エアが漏れる音がする。
- ・ タンク内の圧縮空気が空の状態から  
AC500XL/AC500XLH/AC500XLN の場合は 11 分以上  
AC500XG/AC500XGH の場合は 13 分以上  
待ってもモータが自動停止しない。
- ・ 安全弁が作動し、エアが吹き出す。
- ・ 正常にモータが運転されているのに圧力が上昇しない。

### 電圧感応制御について

本製品は、電源電圧の変化に伴い、モータの回転速度を変化させ最適な状態にしています。これはモータのロックを 방지、過電流を防ぐと共に、電源に対する負荷を軽減するためで、故障ではありません。この電源電圧が低下する原因には、同一電源での電動工具などの併用や、細過ぎる、または長過ぎる延長コードの使用などが考えられます。このような場合は、作業の能率が落ちますので原因を取り除いてください。



## こんなときは？

### 保護機能について

本製品は下記の異常時にデジタル表示で異常を表示します。

異常表示時には、・保護機能が働き、運転が止まります。

・ブザーが鳴り、電源ランプが点滅します。

デジタル表示		異常内容	確認すべき項目	対応方法
オーバー ヒート ランプ 点灯	E1	モータの異常過熱	冷却ファンの風窓の前に しゃへい物がないか	電源プラグを抜いて ブザーを止め、本 製品が冷えてから 改めて電源プラグ をコンセントに挿 し込んでください
	E2	制御基板の異常過熱		
E3		電源電圧が異常に高い	電源電圧が異常に高くないか	電源ボタンを長押し（約5秒間）してブザーを止め、電源周りを確認してください
E4		電源電圧が異常に低い※1	電源電圧が異常に低くないか、他の機器と同時に使用していないか 延長コードの長さ 30 m 以上、太さ 2.0 mm <sup>2</sup> 未満になっていないか	
異常ラン プ点灯	E5	モータの異常	エアコンプレッサから異常な音がしないか	電源ボタンを長押し（約5秒間）してブザーを止めます
	E6	制御基板の異常		
	E7	タンク内圧力センサ異常	タンク内圧デジタル表示が正常に表示されているか	
	E8	タンク内圧力センサ未接続		
	E9	取出圧力 1 センサ未接続	減圧弁調整ノブを回して取出圧力 1 デジタル表示が変化するか	
	Ea	取出圧力 2 センサ未接続	減圧弁調整ノブを回して取出圧力 2 デジタル表示が変化するか	
	Eb	モータ IC 異常	エアコンプレッサから異常な音がしないか	
	Ec	モータロック		
	Ed	取出圧力異常	取出圧力デジタル表示が正常に表示されているか	

上記操作を行った後、保護機能が働く場合は、エアコンプレッサの故障が考えられますので、直ちに使用を中止し、お買い上げの販売店、または当社営業所に修理をお申し付けください。

※1 電源電圧が正常範囲に戻った場合は異常状態から自動復帰します。

## 保守・点検について

- ・ 本製品の性能を維持するために定期的に保守・点検を行ってください。

### ⚠ 警告

保守・点検の際には必ずエアコンプレッサを停止して、電源プラグを電源コンセントから抜き、ドレンコックを全開にして、タンクから圧縮空気をすべて抜いてください。

- ・ 感電や事故の原因になります。

### 給油について

- ・ 本製品は乾式潤滑構造を採用していますので、給油の必要はありません。

### 保管について

### ⚠ 注意

使用しない場合は、きちんと保管してください。

- ・ 乾燥した場所で、子供の手の届かない所または鍵のかかる所に保管してください。
- ・ 長期間ご使用にならない場合は、保管前にドレンコックを全開にし、5分以上の運転を行ってください。

### ご修理の際は

- ・ 修理はご自分でなさらないで、必ずお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。

### 点検ランプについて

- ・ エアコンプレッサの実運転時間が 1,000 時間を超えると「点検ランプ」が点滅し、その後点灯に切り替わります。
- ・ 「点検ランプ」の点滅が始まった際に、エアコンプレッサのメンテナンスのご要望がありましたらお買い上げの販売店、または当社営業所に点検・修理をお申し付けください。











株式会社 マキタ

愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502

TEL.0566-98-1711 (代表)

881J94A2

IWT